

〔江戸東京野菜生産流通拡大事業（受託研究）〕
馬込半白キュウリの露地栽培で灌水管理が収量に及ぼす影響

遠藤拓弥・沼尻勝人・海保富士男・木下沙也佳
(園芸技術科)

【要約】馬込半白キュウリの露地栽培では、灌水管理により可販果数およびA品の収量を増加させる傾向がある。

【目的】

これまでに、馬込半白キュウリ(以下、「馬込半白」とする)は露地栽培で台木による果実の影響や他の半白キュウリとの収量および品質の差異を明らかにしてきた。今年度は灌水管理による収量への影響を明らかにし、江戸東京野菜主要5品目・栽培マニュアルを作成するための参考資料とする。

【方法】

1. 2019年5月15日に「馬込半白、豊美2号」、5月17日に台木「ひかりパワーゴールド」を播種し挿し接ぎを行った。6月3日に「馬込半白」を播種した(接ぎ木作業なし)。いずれも育苗し、6月20日に定植した。株間80cm, 栽植密度960株/10aの支柱立てを行い、整枝は半放任とした。灌水区、無灌水区を設け、灌水区では定植後2回/日の自動灌水(4.4L/株・日)を行った。

【成果の概要】

1. 収穫果数について、「馬込半白」は接ぎ木、自根ともに参考品種「豊美2号」の4割程度であった(表1)。7月下旬～8月上旬の可販果数では灌水区の方が有意差はみられなかったものの多い傾向であった(図1)。7月29日～8月12日の降水量が0mmであったため(図2)、乾燥による影響が果実生育に及ぼしたと考えられる。
2. 収量について「馬込半白」の可販果収量は10aあたり6.5t程度で「豊美2号」の半分であった(表1)。灌水管理による有意差はみられなかったが、可販果収量が多い傾向であった。
3. 可販率では、「馬込半白」は参考品種「豊美2号」より高く、80%を超えていた(表1)。

【残された課題・成果の活用・留意点】

「馬込半白」は「豊美2号」よりもべと病が特に弱いいため、適宜薬剤防除をする必要がある。高温期では苦味および渋味が発生する。これまでの試験結果に基づき、江戸東京野菜主要5品目・栽培マニュアルを作成する。

表1「馬込半白」の収量性に及ぼす灌水の影響

品種	灌水	収穫果数(本/株)				収量(t/10a)				可販率(%)
		A品	B品	A・B品	下物	A品	B品	A・B品	下物	
豊美2号 (参考)	有	37	17	54	16	9.8	4.6	14.4	3.6	78
	無	33	15	48	13	8.7	4.0	12.7	3.2	78
馬込半白(接)	有	18	6	24	5	4.9	1.6	6.5	1.2	84
	無	15	7	22	4	3.9	2.1	6.0	1.0	85
馬込半白(自)	有	22	6	28	3	5.5	1.7	7.2	0.6	91
	無	18	6	24	3	4.6	1.5	6.1	0.9	88
要因効果	灌水	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.

2019年6月20日定植，株間80cm，栽植密度960株/10a，接ぎ木は「ひかりパワーゴールド」とした。有意性で，n.s.は有意差がないことを示す。

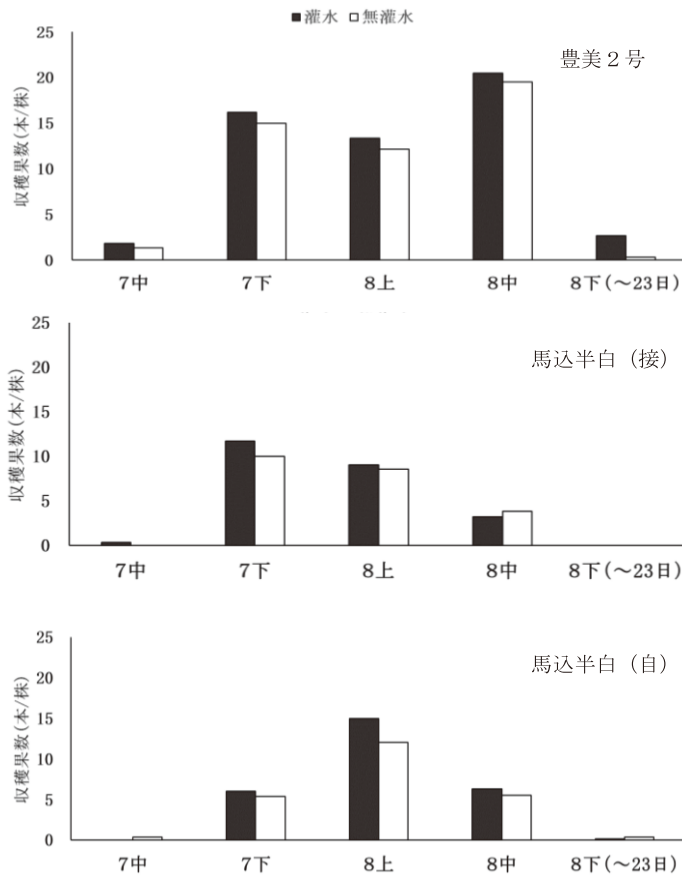


図1 「豊美2号」および「馬込半白」の可販果数の推移

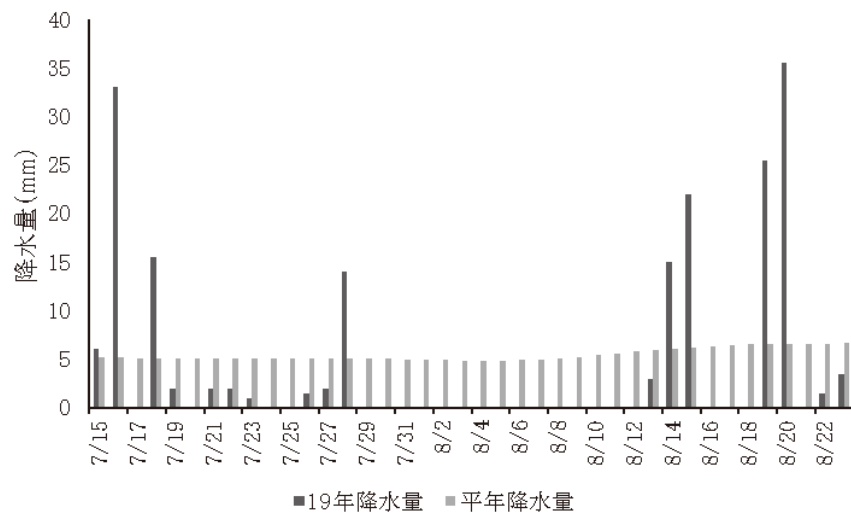


図2 2019年および平年の降水量推移